

(2) 施策の方針

第5章 安全で快適な生活が送れるまち

分野(6) 下水道・河川

施策の方針③ 下水道資源の有効利用

< 目標とすべきまちの姿 >

終末処理場で発生した処理水や汚泥の資源化が効率的に実施されており、より効率的な下水道事業を進めています。

また、終末処理場等の建物上部の未活用スペースは市民により多目的に利用されており福利厚生にも役立てられています。

1 事業評価結果一覧表

都市整備部

評価対象事業名		決算値 (千円)	総事業費 (千円)	26年度 職員数 (人)	今後の方向性	
整理番号	事業名				事業内容	予算規模
	小事業なし	0	2,301	0.3	a	B

2 平成26年度末の目標

都市整備部

脱水汚泥・焼却灰について、引き続き有効利用を行うとともに、今後も安定した有効利用先の確保のための検討を行う。
また、下水道施設上部の市民利用について、周辺住民の要望やニーズを改めて確認しながら、関係課と協議し、実施に向け検討を行う。

3 平成26年度の取組の評価

都市整備部

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善

汚泥焼却灰について、建築用資材として有効利用を図った。
また、下水道施設上部の市民利用については、スポーツ施設として利用するための協議を行った。

4 今後の方向性

都市整備部

下水道から発生する汚泥等の資源を活用したバイオマスエネルギー、用地や施設の一部を活用した太陽光・風力発電、処理水と地形等の立地を活用した小水力発電、中水の再利用等、財源確保等に向けた取組みを検討する。
また、スポーツ施設の整備は、スポーツを所管するセクションの検討に協力する。

5 平成27年度末の目標

都市整備部

引き続き下水道資源の有効活用について検討を行う。

鎌倉市民評価委員会の評価

1 評価できるところ

- ・下水道資源である「汚泥焼却灰」について、建築用資材として有効利用を図った。
- ・下水道施設上部の「スポーツ施設利用」を協議した。
- ・流入水・放流水などの水質検査等を実施し、適正な水質管理、環境保全を図った。

2 課題・提言

- ・山崎浄化センター汚泥焼却設備等の、老朽化対策を講じる必要性がある。